

しよしかんてつ 初志貫徹

「下学上達（かがくじょうたつ）」(論語)とは「日常の身近なところから学んで、次第に深遠な学問に進んでいくこと」の意味です。※日頃の授業や家庭学習を大事にして、自分が興味・関心をもったことを極めると充実していく。

学校教育目標

夢と志とをもち、実現に向かって
自ら努力し続ける生徒の育成

八代市立第四中学校だより

第6号 令和5年8月28日

文責 校長 沖田 龍藏

「自ら鍛えた夏から、飛躍の2学期へ」!



夏季休業日は、厳しい暑さで熱中症を心配しましたが、部活動やクラブ、「チーム四中駅伝」で体を鍛えた四中生が多かったです。7月の全校集会でも多くの生徒を表彰しましたが、第5号で紹介した3年吉坂くん(空手道)の九州大会出場に続き、県中体連大会で、陸上部女子共通4×100mリレー(森本さん、

岩尾さん、前坂さん、佐々木さん)が県2位で出場権を得ました。その他、社会体育では2年松永さん(女子硬式テニス)、2年丸塚さん・1年濱さん(バドミントン女子個人シングルス)が九州大会に出場し、2年宮崎くんは、日頃は相撲部の練習に励みながら、全国中学生少林寺拳法大会の出場を果たしました。中学時代の貴重な経験は次なるステージへの飛躍につながると思います。

8・9月の生活目標「凡事徹底」には、「自分を高める生活を!」とあります。自分を高める生活には、「よい習慣づくり」が大切だと思います。奥村幸治氏(ベースボールスピリッツ代表)の講話を思い出しましたが、イチロー選手が「目的のない練習はない。常に意識してやるのが大切。習慣の一つ一つには意味があり、その意味を意識して行うこと。それを毎日繰り返せば、無意識にできるようになる。」と語っていたことは、どんな場所でもいつもの習慣を実践し、よい準備を怠らずにメジャーリーグの試合に臨んでいる大谷選手とも通じるものがあると言えます。また、渋沢栄一(2024年新札の顔)も「成功の種は苦難のときにまかれ、失敗の種は得意なときにまかれる。成功の第一歩はよい習慣を身に付けることにある。」と述べています。2学期は、自分を高める生活を意識してよい習慣をつくっていきましょう。まずは、9月9日の体育大会に向けて、「三点固定運動」の実践と13日~15日の前期期末考査に向け「文武両道」を心がけ、家庭学習の時間を自己設計することから始めましょう。そして、9月29日の英検取得に向けた「中学生英語チャレンジプロジェクト」にも積極的に取り組みましょう。目的をもって意味のある練習や学習を積み重ねることでよい習慣がつくられ、自身に「運」を呼び込み、人生を好転させていく可能性があります。8月初めには、4月に実施された3年生対象の「全国学力・学習状況調査」の結果が届きました。国語、数学、英語ともに全国平均には及ばない結果でした。全体的に見ると、「国語は基礎学力に個人差が見られ、作文力の改善はあったが、読解力、語彙力を伸ばす取組が必要。数学は証明問題に課題が見られ、3学期の既習問題の定着が不十分であったこと等、分析をもとに対策を立て演習していく。英語は、国語と同様に、語彙力、読解力に課題が見られ、授業と家庭学習を連動させていくことで基礎的・基本的事項の定着を図ること」を教科担当中心に、全職員で確認しました。ただ、質問紙からは、「読書が好き」、「授業でのICT活用状況」、「先生があなたのよいところを認めてくれている」、「学校に行くのが楽しい」等で全国平均を上回っており、「四中プライド」が醸成されつつある手応えを感じているところです。運動面のみならず、文化祭等での活躍を期待できる生徒も多くて、2学期も楽しみです。※活躍の詳細は「[八代市立第四中学校 HP](#)」で!

